

隅田川流域の水辺開放に向けた空間構成と背後地の土地利用形態に関する研究

A Study on the spatial composition and land use form of the hinterland to open the waterside of the Sumida River

○岡滉介¹, 菅原遼², 畔柳昭雄²*Kousuke Oka¹, Ryo Sugahara², Akio Kuroyanagi²

Abstract: In recent years, the Sumida River, which flows through the Tokyo metropolitan area, has a promenade along the river and restaurants facing the water, and it is expected that the water will expand further in the future. Therefore, the purpose of this paper is to understand the spatial composition of the Sumida River basin and the land use situation of the hinterland as a basic survey for selecting an appropriate place to open the waterside of the Sumida River.

1. はじめに

近年、東京都内を流下する隅田川では、河川沿いの遊歩道や水辺に開いた飲食店等の整備が実施されており、今後も更なる水辺開放施策の展開が考えられる。

そこで本稿では、今後の隅田川の水辺開放に向けた適地選定を検討する上での基礎的調査として、隅田川流域の空間構成や背後地の土地利用の状況を捉えることを目的とする。

2. 調査概要

Table 1 に調査概要を示す。本稿では、隅田川に架かる永代橋から水神大橋までの範囲を橋梁に応じて14区間に区分し調査を実施した。調査は、GoogleMapや国土地理院地図等の各種地図データ、隅田川護岸整備に関する各種資料を用いた文献調査や現地踏査を実施し、隅田川流域における護岸形態や河川背後地の土地利用及び建物用途、堤防背後まで進入可能な道路数、遊歩道へアクセス可能な場所等に関して整理した。

3. 調査結果及び考察

3-1. 隅田川流域の空間構成

Figure 1 に隅田川流域の空間構成と各区間の概要を示す。調査範囲（永代橋～水神大橋）の水際線距離は総延長約14,090m（右岸約7,160m, 左岸約6,920m）であり、護岸形態は、直立堤防が約11,830m（84%）と多くを占めており、緩傾斜堤防が約11,940m（14%）、高規格堤防が約320m（2%）となっていた。また、堤防背後の土地利用を道路・建物・空地に分類・整理した結果、概ね道路で構成されており、建物を有している区間は①・②・③、空地を有している区間は③・④・⑫・⑬・⑭の区間において確認できた。さらに、堤防背後まで進入可能な道路数に着目すると、隅田川流域全体において115ヶ所（右岸70ヶ所, 左岸45ヶ所）確認でき、その内、自動車にて進入可能な道路は16ヶ所（右岸9ヶ所, 左岸7ヶ所）確認できた。隅田川沿いの遊歩道

Table 1. Outline of the study

項目	内容
調査対象地	隅田川流域(永代橋～水神大橋までの範囲)
調査方法	現地踏査, 文献調査「GoogleMap, YAHOO地図, 国土地理院地図 スーパー堤防及び緩傾斜型堤防の実施箇所(東京都建設局発行)」 水際線距離, 堤防形状, 堤防背後地の土地利用
調査項目	堤防背後地に進入可能な道路, 遊歩道へのアクセス可能な場所 船着き場, 隅田川背後地の建物用途, 最寄駅から川までの平均距離
調査期間	2020年8月10日～10月10日

へのアクセス場所を整理すると、隅田川流域全体で97ヶ所（右岸48ヶ所, 左岸49ヶ所）確認できた。

3-2. 隅田川流域における河川背後地の建物用途

Figure 2 に隅田川流域における河川背後地の建物用途を示す。隅田川右岸側における河川背後地の建物用途に着目すると、合計449軒の建物立地を確認でき、住居施設が175軒（39%）と最も多く、次いで、事務所が139軒（31%）、商業施設が79軒（18%）と続いた。左岸側では、合計613軒の建物立地を確認でき、住居施設が348軒（57%）と最も多く、次いで、事務所が138軒（22%）、商業施設が53軒（9%）確認できた。特に左岸側では、住居施設の割合が高い一方、右岸側では住居施設に加えて、事務所や商業施設の割合も高く、多様な機能用途の建物立地が確認できた。

4. おわりに

本稿では、隅田川流域の空間構成と河川背後地の土地利用の状況を把握した。今後は、隅田川流域の護岸形態や河川背後地の土地利用の特性に応じた水辺開放の方策として、民間参画による河川空間利用や親水護岸整備に関する方策を検討していく。

5. 参考文献

- [1] 国土交通省: 国土地理院地図,
<https://maps.gsi.go.jp/>
- [2] 東京都建設局: 高潮防御施設整備事業,
<https://www.kensetu.metro.tokyo.lg.jp/jimusyo/chisui/jigyuu>

1: 日大理工・学部・海建 Undergraduate School, Nihon-U.

2: 日大理工・教員・海建 Associate Prof, CST, Nihon-U., Dr. Eng.

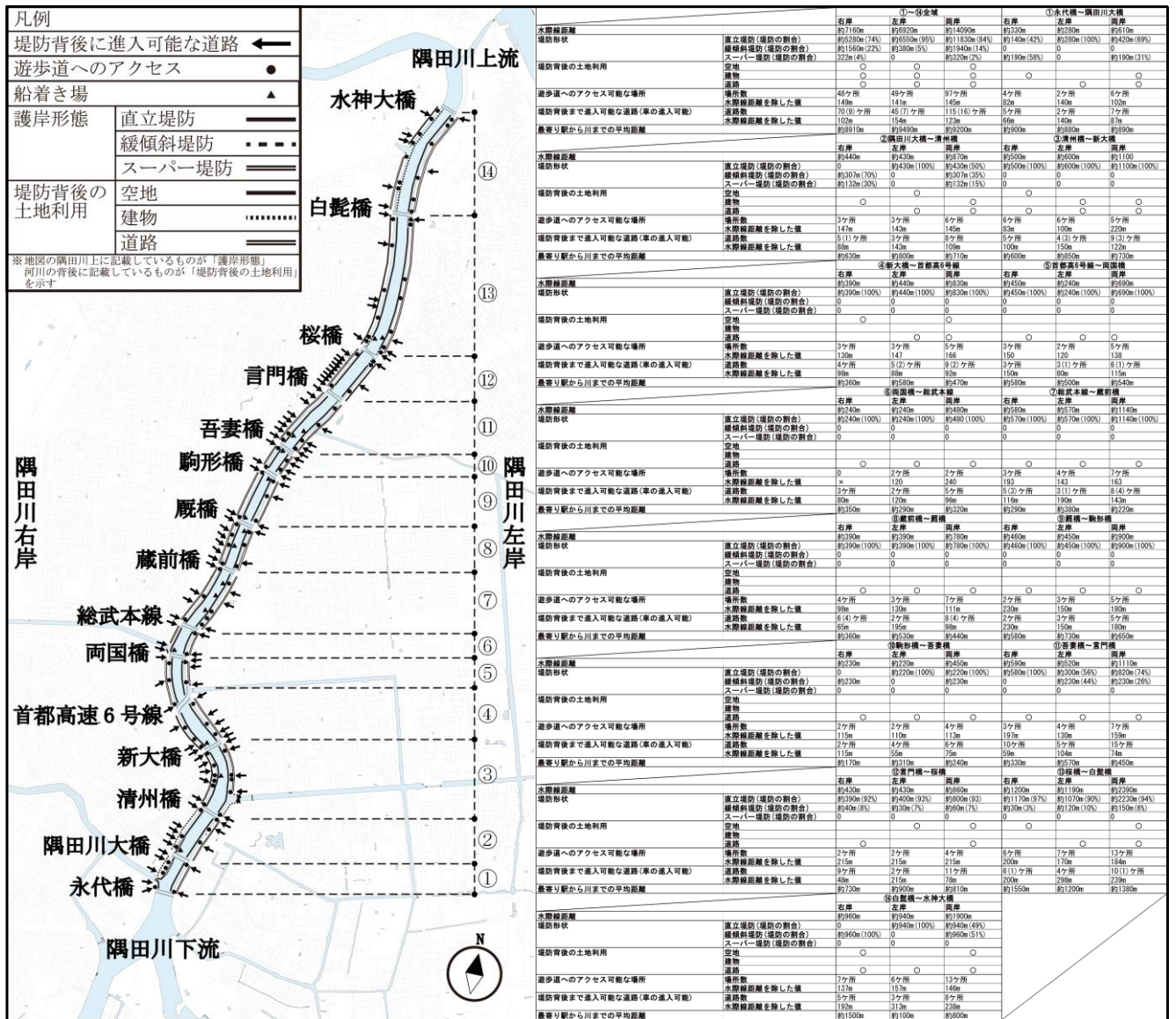


Figure1. Information on each area

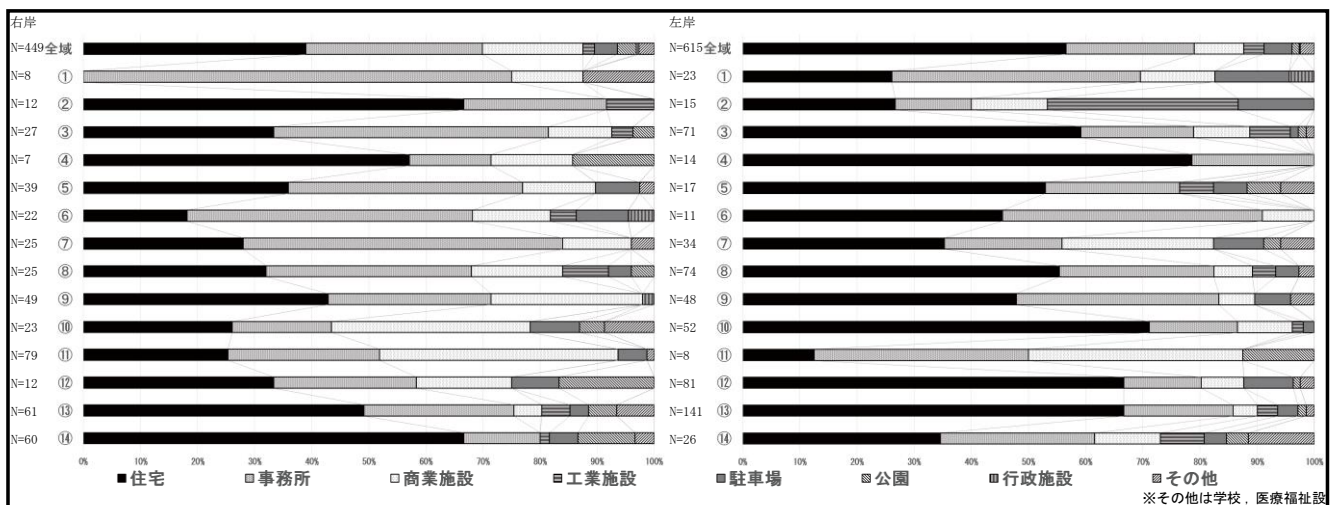


Figure2. Building use by each area